「地域医療」と「新型コロナウイルス」

福岡市東区にあり、急性期治療に力を注ぐ『福岡和白病院』。大学病院や地域のクリニックを繋ぐ中核としての役割を担っており、365日24時間体制で、年間6500もの救急車を受け入れ、幅広い病気や怪我の患者に対応する。新型コロナウイルスの流行は、地域医療構想にどのような影響を与えたのか話を伺った。

コロナ禍における地域医療連携

『福岡和白病院』では、2021年5月から新型コロナウイルス感染症の重点病院として、人工肺とポンプを用いた体外循環回路による治療である「ECMO（エクモ）」患者を福岡地区で2番目に多く受け入れている。病院の規模は中規模なので、重症患者のみに限定。ECMOや人工呼吸が必要な患者が中心だ。コロナ感染患者にECMOができる病院は東区では『福岡和白病院』のみ。ドクターや臨床工学士、看護師を始め、ECMOに慣れているスタッフが数多く在籍し、病院全体で新型コロナウイルス感染症の流行に対応する。

福岡県内各地から重症患者を受け入れているため、新型コロナウイルスが流行し始めた当初は、コロナ患者専用に用意していた21病床があっという間に満床になってしまったという。そこで、福岡市内の病院と連携を取り、重症化しないと判断した患者を近隣の病院へ送り、ベッドを確保して次の重症患者を受け入れる仕組みを作り、2021年10月頃、第5波からこのシステムを開始した。

また、新型コロナウイルスの流行により、コロナウイルス感染以外の救急患者の受け入れも逼迫した。コロナ感染患者同様、福岡市内の病院の院長同士で連絡を取ることで極力対応するようにしているが、市内の病院だけでは調整が困難なこともあり、未だ課題も残っている。

病気やけがの程度による医療の役割分担

新型コロナウイルスに限らず、様々な病気やけがも、その程度によって地域の医療機関が役割分担している。中でも脳外科と循環器、整形は急患が多く、『福岡和白病院』の専門分野だ。頭の血管が詰まる脳卒中では、血栓吸引療法を行なう。県内でこの治療ができるのはわずか数カ所。詰まった血の塊を取り除く手術は時間との勝負。『福岡和白病院』では、24時間365日対応可能だ。

また、心筋梗塞に対するカテーテル治療にも対応しており、心臓が弱っている人に対しては「ECMO」を使用し、ECMOでも不十分な患者には心臓を補助する機械「インペラー」を入れる。

整形では、80〜90代の高齢者の骨折患者が多く、術後すぐリハビリができるように、急性期では珍しく100人近くのセラピストが在籍する。早期にリハビリを開始し、回復期のリハビリは近隣の病院で行なう。2週間前後で治療が可能な患者、2〜3カ月治療が必要な患者、それ以上の長期の治療が必要な患者と、各病院の機能が分かれているため、1つの病院で治療を終わらせず、地域の複数の病院が連携して治療を完結させる体制をとっている。

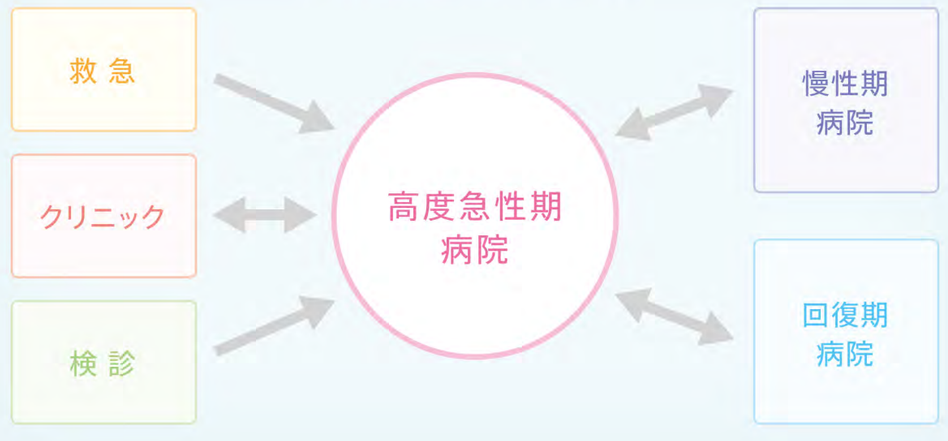
最新の技術を用いたがん治療を導入

2021年4月から、地域がん診療連携拠点病院に認定された。拠点病院は、がん診療の質の向上や、医療機関の連携体制の中心的な役割を担う。認定に伴い、より低侵襲で確実ながん手術ができるよう手術支援ロボットを導入した。前立腺がんや腎がん、肺がんは現在ロボットでの手術を実施している。来春からは、大腸がんにも順次対応する予定だ。また、放射線治療であるガンマナイフを九州で初めて導入し、九州大学病院や他県からも患者が訪れる。放射線治療では、放射線を脳の腫瘍にピンポイントで当てて治療することができる。

また、福岡和白総合健診クリニックが隣接しており、胃カメラと大腸カメラは年間約2万件にも及ぶ検診を実施。近年では、がんの遺伝子検査も可能になり、どの遺伝子に異変が起こったのか見つけることができる。検査の結果により、処方する薬を判断できるという。

『福岡和白病院』は、福岡市の医療機関の中核として、よりスムーズな医療の提供のため技術をアップデートしながら、各機関への架け橋となる。

福岡和白病院の役割



九州各地の急患に対応する民間医療ヘリ

九州各地から急患の患者を素早く運ぶ医療搬送用ヘリコプター「ホワイトバード」。壱岐や対馬などの離島からの要請も多い。病院から壱岐まで約20分、対馬まで約40分というスピード。1日に2回以上の頻度で出動することも。

福岡和白病院の屋上にあるヘリポート

Hospital Data

社会医療法人財団池友会
福岡和白病院
福岡市東区和白丘2-2-75 ☎092-608-0001
https://www.f-wajirohp.jp

今回お話しをお伺いしたのは

福岡和白病院 院長
益田 宗孝 先生

PROFILE 1980年九州大学医学部卒業後、同大学心臓外科入局。ベルギー王国ルーヴァンカトリック大学へ留学後、福岡市立こども病院心臓血管外科医長、九州大学循環器外科准教授を務める。その後、横浜市立大学大学院医学研究科外科治療学教授、付属市民総合医療センター副院長、医学部長を経て、2021年4月より福岡和白病院院長に就任。